

勉強をするために大学に入ったのか何なのか、アルバイトをメインにしてしまい本末転倒な日本大学生が多い中、中国人は大学に在籍している間は大学のこと全力を注げるということ、これは日本人も見習ってしかなるべきだという考えが、中国の学生を見て思い浮かびました。

◆後書

本稿では、私の実際の私生活、学習環境の説明を交えつつ、そこで生じた異文化への理解や自身の思考の改善、また最後には限定的な情報に基づいた考えではありますが、私が素晴らしいと感じた復旦大学生の様子を記しました。この考えなどはこの留学を通して染み付いたものであり、復旦大学と神奈川大学という2つだけではなく、そこに更に2種類の学生態度の情報も入ったからこそ、その点に注目したくなったのだと思います。このように留学での経験をこのような形でまとめることは、自身が精神的に得た成果を顕著にするのに非常に効率的でした。

第7回 神人祭

1 はじめに

2月5日に第7回神人祭が行われました。神人祭とはその名の通り、神奈川大学人間科学部の学科祭であり、スポーツ健康コースが中心を担っています。今年度は昨年度に引き続きゼミ対抗のスポーツフェスティバルを実施しました。

今回、私は実行委員という立場で神人祭に関わらせていただきました。半ば強制的(笑)に実行委員をやることとなり、始めは自分に何が出来のたろうかと思っていましたが、今ではこの神人祭の企画運営に関わることが出来て本当に良かったと思っています。

例年、後学期末定期試験のすぐ後に実施されている神人祭ですが、今年度は体育館の補修工事の関係で1週間ほど遅れてしまいました。そのため、帰省や部活動などの理由で参加者が減ってしまうのではないかとという不安がありました。実際に、

実行委員の主要メンバーも部活動等の理由で当日参加出来なくなっていました。彼らは、昨年度も実行委員を経験していたため、当然イニシアチブをとってくれると思っていたので正直焦りました。残された私達は腹をくくり、太田先生の協力を得ながら、手探りの状況で何日も大学に通い、打ち合わせや準備をし、当日を迎えました。

2 神人祭の午前の部

当日は、やはり例年よりも参加者が少なく、午前中約90名・午後約80名での実施となりました。ゼミ対抗のため、チーム数は最多で8チーム、最少で6チームは出来ると予測していましたが、3ゼミ合同のチームを含む5つのチームによる対抗戦となりました。

しかし…人数など関係ありませんでした！第一種目のバレーボールが始まるととても盛り

上がり、スポーツ健康コースらしいレベルの高い白熱した戦いとなりました。それぞれのゼミが作戦をたてたり熱を入れて練習したりと、会場が一気に熱くなりました。

二種目めの大縄跳びでは一斉跳びと八の字跳びを各1分30秒を2回セット、計6分間行つたため流石に疲労困憊の様子でしたが、皆で声を掛け合



白熱！バレーボール



まさかの大ジャンプ、大縄跳び

人間科学部
人間科学科2年

森 由香里

人間科学部(人間社会コース)では2012年度学科祭として、昨年度に引き続き「横浜市水源林(山梨県道志村)の視察と間伐体験」を開催致しました。これは、横浜市の水道水源林の一つである山梨県道志村の視察を行い、日本で最初の近代水道事業の概要と水道水源林の重要性について理解を深めるとともに、現地での間伐体験を通じて、水源林を含めた日本の森林地域における現状と課題を実感してもらうことを目的としています。

今年度は教員2名と学生32名が参加し、2012年11月10日(土)に実施しましたが、当日の間伐の様子などについて、参加した学生の感想レポートから紹介します。



【写真①】
間伐はまず、「受け口」と呼ばれる切り込みを木の根本に入れる(白いチョークで三角に引かれた線)。これは木が倒れる方向を決める物で安全管理上、重要な役割を果たす。「受け口」が切り取れたら、「追い口」という水平な切り込みを入れる。これによって、木は受け口と追い口の位置の差によってできた一部分を残して切られた状態になる。



【写真②】
木はほぼ予定した方向に倒れた。写真には写っていないが、倒れる方向の誘導のために5人ほどが木の上に結わいたロープを倒木予定地点の滑車を通して引っ張っていた。ボランティアの方いわく、倒れる瞬間の「ドーン」という衝撃がこの仕事のやりがいだそうだ。実際体験すると細めの木でも凄い迫力だった。倒れた木の樹齢は年輪から推定で20年ほどだろうか。木に隠れて見えづらいが、作業地点のすぐ脇に沢が流れていた。水はやはり澄んでいてとても綺麗だった。

2012年度学科祭 (人間社会コース)の開催について

人間科学部
人間科学科 教員

松本 安生



3 神人祭のスタートは、障害物リレーでした。この種目は、4人一組で行い、小麦粉の中に豪快に顔を入れチョコレイトを探し出し、馬跳びをしたり、4人5脚でパン食い競争やハードルを越えたりするリレーです。大学生が顔を真っ白にしながら一生懸命になる姿を見て、大爆笑しながら必死に応援してしまいます。次に実施した神人祭恒例のカップルキューンキューン仮装リレーでも、恥ずかしがらずにやってのけた最強、太田ゼミ、ポーツ健康コースの学生ならではあるとともに、このような姿は神人祭でしか見ることができないと思います。終盤のキックターゲットは、最終種目であるリ



大爆笑! 障害物リレー

レーにつなぐ種目として盛り上がるように考え、準備もパネル作りなど一番時間をかけたにも関わらず意外にもあまり盛り上がり(泣)、パネルの間隔に問題があったり、やはり対戦型の種目の方が盛り上がるなどの反省点も見つかりました。

そして、最終種目のゼミ対抗リレーでは、優勝チームに与えられる得点が高く大どんでん返しがあるというところもあり、緊張感は一層高まり、どのゼミもとても盛り上がりつつありました。

勝負の分かれ目はバトンパスでした。どのゼミもパスミスが目立つ中、優勝したチームはバトンパスでは少しスピードを緩め、バトンだけは落とさないようにと作戦を立てていたようです。作戦勝ちですね。そのような終始、盛り上がりつつあった中にもストイックさが垣間見られ、各ゼミの持ち味や色が存分に発揮されていたように思います。

神人祭は、日頃、ゼミ内の他学年との関わりや、他ゼミとの関わりが少ない中で、一同に会することの出来る、スポーツ健康コースならではのスポーツフェスティバルです。しかし、まだまだ知名度が低いのが現状です。



ベストカップル賞!



参加者全員で!



ALL STAFF ☆



ガンバレ! 応援してます!

4 さいごに
今回、企画運営に関わらせていただいたて、考えさせられることや学ぶことが多くありました。教職を目指す立場から、事前準備の重要性は理解していたものの、先を読み動く思慮深さや、確実に実現可能というところまでやり抜くキモチの必要性を自覚し、こうした大きな事業の経験を通して少しは身に付いたかなと思っています。